ドイツに着いたあと、公式手続きのフローは以下のようになる。

1. 住民登録
2. 銀行口座開設
3. 健康保険の契約
4. 仕事・大学の契約・入学手続き
5. ビザ申請
6. 住民登録

住民登録ができなければ、以下全ての公式手続きができない。なので、早めに済ませてしまおう。専門の申請書類(Anmeldung)がBürgeramtにあるので、そこに記入して提出する。僕の場合は大学のコースがオリエンテーションの中で、書き方を指導してくれたが、普通は自分でやらないといけないだろう。パスポート、家の契約書 (Mietvertrag)、財源証明書（奨学金や、収入が明記された仕事の契約書がある場合はそれ）が同時に必要。証明写真もあるといい。てか、大学の受け入れ許可証など、関連しそうな公式書類は全て持っていこう。何を見せなきゃいけないかは、窓口のおばさんの気分次第だからである。ドイツ語ができればBürgeramtでの窓口対応で何の問題もないが、そうでない場合は、大きく口を開けてはっきり英語を話すことが大事である。

1. 銀行口座開設

交換留学生の場合、なぜかみんなSparkasseで口座開設する。もちろん、Deutsche Bank,

Post Bank, Volks Bankなど選択肢は他にもある。が、家の近くにあるところで開けばよいと思われる。Deutsche BankはOnlineの表示を英語にすることができるので、ドイツ語ができない人はDeutsche Bankをお勧めする。住民登録の控えと、パスポートは持参のこと。学生の場合は、学生口座を作ると維持手数料がかからないため、少なくとも大学の受け入れ許可証は持っていこう。学生なら大丈夫なはずだが、口座維持費がかかるかどうかは念のため確認すること。

1. 健康保険の契約

日本は生まれながらにして国民皆保険であるが、ドイツでは自分で保険に入らないと何か起きた時に人生終わる。日本で長期の海外滞在保険に入っているか、ドイツの保険にすでに入っているのでない限り、駅前にあるAOKに行って健康保険に加入しよう。健康保険があって初めて、正式な大学の入学手続きや、仕事の契約履行が始められる。

1. 仕事・大学の契約・入学手続き

上３つのプロセスが住んでいれば、あとは控えの書類を全部しかるべきところ（大学の留学生課、会社の人事部など）に持っていけば、晴れてドイツの学生（あるいは社会人）になれる。既に持ち運ぶ書類の量が半端なくなっていると思うので、クリアファイルなどにまとめてなくさないようにしよう。

1. ビザ申請

日本人であれば、ドイツに入国してからビザを申請すればよい。やはりBürgeramtで、申請書類を記入して提出する。パスポート、大学入学許可証あるいは仕事の契約書、（奨学金、仕事の契約書など）収入証書、健康保険の証明書、証明写真、手数料（90EUR）が必要。

例によって、とりあえず関連のありそうな書類は全て持っていくべきである。電子ビザは登録するように推奨されるだろうが、使う機会はほぼないだろう。ビザ申請後、ベルリンから送られてくる滞在許可書(Aufenthaltstitel)は、ドイツで生きていくのにパスポート並に大切な書類なので、海外旅行に行くときなど、必ずなくさないように持ち歩こう。